

「子どもとつくる楽しい授業の創造」 ～楽しく学び 高め合う算数学習をめざして～

I 主題設定の理由

本年度より新学習指導要領が全面実施された。算数科の目標の中に、算数的活動の一層の充実、数学的思考力・表現力、生活や学習に活用しようとする態度の育成が重視されている。

本部会においても、昨年度の研究の視点の中にも、これらの目標に関わることが示されていた。そして、研究の成果として、算数的活動の中の作業的・体験的な活動を授業に取り入れることで、子どもたちの意欲を喚起し、体験を基に自分の考えをまわりに発信しようとする態度を育てることに有効であることがわかった。また、子ども同士の考えを交流する方法として、ペア活動を取り入れた授業を行い、ペアで課題に取り組むことで思考に新たな広がりや深まりが見られる場面が増えたことが成果として挙げられた。しかし、ペアで課題に取り組む際に、一人の子どもで考えが活動が進められてしまったり、ペアで出た意見がうまく全体に広げられなかったりする場合もあり、個々の考えを全体に広めたり、伝え合うことで考えが深まったりするような場づくりの工夫や数学的表現の育成が依然として課題であることがわかった。

よって、今年度も、昨年度の研究テーマ「楽しく学び、高め合う算数学習をめざして」を継続し、さらに数学的表現力を育成するためにはどのような算数的活動を仕組み、その中でどのような過程や方法を用いて数学的コミュニケーションをさせていくのか、意図的に指導していくことは何かということに着目して研究を進めていきたい。また、わかりやすく楽しい授業づくりに役立つ教材・教具についても、互いの実践を発表しながらともに学習をしていきたい。

II 研究の内容

1 授業研究と検証

提案授業 第4学年「広さをしらべよう」 授業者 中根 淳教諭（山梨小学校）

授業日 平成24年 1月25日（木）5校時

○ 研究協議より

- ・子どもたちが活発に自分の意見を発表していた。これは、子どもたちが安心して自分の考えを言える土壌が学級にあったためと考える。子どもたちの関わり合いを深めさせるには、基盤となる学級経営も大切になってくる。
- ・電子黒板の活用は、自己の考えがより視覚的に友だちに伝えられる有効な方法であった。また、子どもたちの理解を助ける有効な手段でもあることがわかった。ただ、子どもたちの関わり合いを深めるときには、子どもたちに主体的に

説明させる授業を仕組んでいった方がよい。電子黒板を含めたICTの活用は、使用意図をはっきりさせることが大切であることがわかった。

- ・大きな長方形から小さな長方形を引いて、課題の図形の面積を求める考えをその場で発表させるのではなく、式を読み取らせる場面を設定したことが良かった。
- ・課題の図形を1cm²に分け考えた子どもがいたので、細かくする発想が出た。方眼をつかったことで、子どもたちの発想が豊かになったことがわかった。
- ・一人一人の学びを成立させるためには、どこで評価を入れるかも大切である。

2 研究の視点に関わった指導についての実践事例の発表および情報交換

部員が研究テーマ、研究の重点に関わる実践事例や参考資料を持ち寄り、交流し合い、互いに学び合った。

3 小学校と中学校合同の交流授業研究会・情報交換

Ⅲ 成果物

<授業案> 第4学年「広さをしらべよう」

<実践事例> 第1学年「いくつといくつ」 第1学年「たしざん」

第2学年「長さをはかろう」

第3学年「半分より多いのは？」

第3学年「分けた大きさの表し方を考えよう」

第4学年「計算のきまり」

第5学年「面積の求め方を考えよう」

第6学年「同じ形で大きさが違う図形を調べよう」

Ⅳ 成果と課題

1 成果

- ・算数的活動や算数科における言語活動の充実について、夏季に行った学習会や授業案検討を通して、それぞれの理解を深めることができた。
- ・一人一実践の提案を通し、算数的活動の様々な具体例を知ることができ、互いに自己の授業を見直すよい機会となった。
- ・児童の相互理解を助けるものとして、ICTの活用が考えられることが研究授業の成果からわかった。

2 課題

- ・より研究を深めるために、研究内容を領域または題材1つに絞り、その題材について理論研究をして、研究授業をする方法もあるのではないか。
- ・部会の計画運営と県教研関係をやる部分を分業して、皆がより主体的に臨めるような内容・方法・体制を考えてみてはどうか。

(部長 小林 みずほ)